

2023年3月期 第二四半期 決算説明会(2023年11月16日)

《質疑応答内容》

(質問1)

通期計画を据置いた理由として「中国リスクによる投資抑制」との話があったが、半年くらい前から同様の話を聞いている。一方、この上半期の業績を見る限り、その影響は出ていないように見えるが、実際のところどうなのか。

(回答1)

お客様によってばらつきがあり、一部のお客様においては、中国リスクの顕在化によりビジネスに影響を受け、システム投資に慎重なところもある。但し、それ以上に、他のお客様までカバーできていることから、全体としては比較的好調な結果となった。

(質問2)

AITが計画比上振れて推移しているがその理由は何か。また、下期の見通しはどうか。

(回答2)

AITにおける上期の上振れの理由は、主として金融向けが好調だったことによる。一方で、下期は、病院等を中心に大型案件を抱えている。販売事業は、入札や検収のタイミングなど、売上が左右される要素も多く、コミットすることは難しいが、大きく落ちることはないと考えている。

(質問3)

「単価の引上げ」と「人件費の増加」については、どちらが上回っているのか。

(回答3)

「人件費の増加」については、売上に価格転嫁できており、利益率の上昇という形で業績結果にも表れている。「人手不足」の問題はお客様にも相応に浸透していることから、比較的高めの単価提案でも受け入れていただいている。

(質問4)

開発事業や運用・構築事業に比べ、販売は利益率が相対的に低いと認識している。この上期は比較的利益率の低いはずの販売が伸びているにもかかわらず、全体の利益率が上がっているのはなぜか？

(回答4)

販売事業のうち、ソフトウェア販売は利益率が高く、こちらの比重が上がっているため、販売事業としても利益率は向上している。これに加え、注力しているDX対応の商品・サービス型ビジネスは単価が高く、利益率向上に寄与している。

以上